

2018 鈴鹿シリーズがいよいよスタート！ 堀尾選手が逃げ切り&逆転で2連勝を飾る



■2017年12月17日 ■鈴鹿サーキット国際南コース（三重県） ■曇り（ドライ） ■参加台数：第3戦 23台／第4戦 23台

6段変速機構を内蔵したボルテックス社製125cc水冷エンジン『ROK SHIFTER』のワンメイクレース、ROK SHIFTER CUP。その2018鈴鹿シリーズが12月17日、三重県・鈴鹿サーキット国際南コースでスタートを切った。この日の大会は第3戦／第4戦。9月17日に予定されていた第1戦／第2戦が台風接近の影響で中止になったため、この大会が実質の2018シリーズ開幕戦になる。

ROK SHIFTER CUPは、毎年秋にイタリアで開催されるROKユーザーの世界チャンピオン大会『ROK INTERNATIONAL FINAL』に招待される“日本代表”ドライバーの選出を兼ねたシリーズ戦。この鈴鹿シリーズとともにオートパラダイス御殿場でも同様のシリーズ戦が行なわれ、ランキングは両シリーズのポイントの合算で決まる。

各大会はタイムトライアル→決勝第1レース→決勝第2レースの2レース制で実施。2018シリーズはポイントシステムが変更され、第1レースでは1位から10位に12点～1点が、第2レースでは1位から15位に25点～1点（どちらも完走が5台未満の場合はその50%）が与えられることになった。

この日の大会には最年少16歳、最高齢57歳のバラエティ豊かな23名が出場。中でも注目を浴びたのが、マクラレン・ホンダのテストドライバーとしてFIA GP2／F2に参戦していた松下信治選手（Eagle.TKJ.IDEAL）のスポット参戦だ。

大会当日の鈴鹿は快晴。冷え込む朝の空気の中で行なわれたタイムトライアルは、上位10台が0.5秒の中にひしめく実力伯仲状態となった。47秒104を記録してそのトップとなったのは、2017シリーズ王者の小林一景選手（K.SPEED WIN）。小林選手とコンマ1秒弱の差の2番手は、同ランキング2位の堀尾風允選手（TAKAGI PLANNING RT）。3番手の水越健太選手（MOMOX Kart Racing）までが従来のコースレコードを更新した。4番手は東拓志選手（INTREPID JAPAN CORSE）。韓国から参戦のキム・カンドゥー選手（CJ Racing Junior）が5番手に。松下選手は9番手となった。

Round 3

(7LAPS)



メインストレート上のスターティンググリッドで、発進できないマシンが現れるハプニングが繰り返し発生。フォーメーションラップは3度仕切り直しとなり、そのたび周回数は減算されて10周の予定だったレースは7周で行なわれることとなった。この間、ポールの小林選手はコース上にストップしてDNSとなり、3番グリッドの水越選手もペナルティで最後尾グリッドに降格と、上位陣にも波乱が続く中でレースは口火を切った。

実質的なポールとなった堀尾選手はスタートをきっちり決めると、背後で繰り広げられる競り合いに乗じてたちまちリードを広げ、2周で2番手との間に1秒以上のギャップを築いた。それに続くのは、見事なスタートで3つポジションを上げたキム選手だ。両車の間隔は一時1.5秒ほどに広がったが、レース終盤、キム選手は堀尾選手に接近していく。だが、その差が0.5秒に縮まったところでチェッカー。2019シリーズ最初のレースは、堀尾選手がウィナーとなった。キム選手は自己最上位の2位でフィニッシュだ。

優勝争いの後方では、松下選手が躍進。スタートしてすぐセカンドグループに割って入ると、オーバーテイクを続けながらさらに順位を上げ、6ポジションアップの3位でチェッカーを受けた。

WINNER：堀尾風允選手

「フォーメーションラップが何度もやり直しになったのは、びっくりしました。ああいうことは初めての体験でした。ポールの小林選手がいなくなったことも驚きだったんですが、やはりいっしょに走りたかったですね。レースは独走になったけれど、フォーメーションラップを繰り返したからガソリン残量が心配であまり飛ばせず、後ろに追いつかれないように走りました。2019シリーズ最初のレースで優勝できて、いい出だしになったと思います」

2nd PLACE：キム・カンドゥー選手

「エキサイティングなレースだったけれど、スタートのハプニングで少しナーバスになりました。レース終盤はトップの選手に接近できたけれど、僕がペースを上げたら、たぶん相手はもっと速く走ったのだと思います。次のレースは初優勝の大きなチャンスですが、メンタルをしっかりとコントロールすることが必要でしょうね」

3rd PLACE：松下信治選手

「タイムトライアルはブレーキのトラブルでまともに走れなかったもので、マシンが直れば上がれるだろうとは思っていました。ROK SHIFTERは“突っ込んで、立ち上がる”といった4輪的な走りもできて、4輪からカートに戻ってくる人にも勧められますね。年配のドライバーが頑張っている姿も刺激になりましたし、レースもすごく楽しかったです」



Round 4

(16 LAPS)



第4戦の開始時間が近づくと、空一面には雲が広がって太陽を遮り、細かい氷粒のような雪も降ってきた。16週のレースは、路面の温度が下がり湿り気も帯びた難しいコンディションの下でスタート。すると、急にグリップが低下したコースの各所でアクシデントが発生し、グリッドの1列目と2列目にいた堀尾選手、キム選手、松下選手、中村賢明選手（トレンタクワトロ奈良）もそろって順位を落とした。

ここでトップに立ったのは、5番グリッドから発進した東選手。さらに3周目、21番グリッドから1周で7番手へ浮上していた横山直輝選手（びいたあばん）が、一気に先頭へ躍り出てレースを牽引していく。2・3番手は小林弘直選手（HRT コバヤシ）と水越選手だ。

レースが折り返し点を過ぎると、水越選手が前の2台をかわしてトップに立ち、スタート直後のアクシデントを4番手後退にとどめた堀尾選手も、それに続いて2番手に。そして12周目、ようやく本調子を取り戻した堀尾選手が水越選手をパスしてトップの座に戻った。水越選手も堀尾選手に食い下がったが、堀尾選手はその追撃を退けてフィニッシュ、2連勝を飾った。水越選手は勝利こそ逃したが、自己最上位タイの2位に入賞した。

3位は最終ラップに小林選手をかわした横山選手。また、1周目に最後尾近くまで後退した松下選手は、激しい追い上げで毎周のように順位を上げて9位でチェッカーを受けた。

WINNER：堀尾風允選手

「1周目はイチかバチかでいったらダメで、順位を下げてしまいました。そこからは、とにかくタイヤがグリップするようになるまで待つしかないと思って、フロントがロックしないようにブレーキバランスを調整して走っていました。でも、チャンスはあるはずだと思って諦めずに戦いました。ゴールの瞬間はうれしかったですね。ひやひやしたけれど、観ている人たちを楽しませることができたと思うし、自分自身もワクワクしたレースでした」

2nd PLACE：水越健太選手

「いやー悔しいです。序盤の滑りやすい路面は得意なので、これはチャンスだと思って楽しみながら走っていました。トップに立った時は、後ろに（手強い）堀尾選手がいると分かっていたので、ただただ不安でした。最後まで堀尾選手に食い下がったところは、もう気合いだけでしたね。チャンスがあればいつでも再逆転してやろうと思っていました」

3rd PLACE：横山直輝選手

「4年ぶりに出たレースで、予想以上の成績を残すことができました。僕がこの結果に一番驚いています。スタート前に雪が降った時は、晴れたらダメだろうと思って『もっと降れ！』と祈っていました（笑）。久々のレースはしんどかったけれど、楽しかったですね。ROK SHIFTERは速いカートが好きな人、ミッションカートに興味のある人にオススメです」